10月給食たより

令和８年１０月
熊　野　町



朝夕、だいぶ涼しくなってきました。日中との気温差もあり、体調を崩しやすい時期です。体調管理の基本は「バランスのよい食事」です。今が旬のさんまやさけ、くり、さつまいも、りんご、なしなど「秋の味覚」をたっぷり味わいながら、適度な運動と十分な休養を心がけて心身ともに健康に過ごしましょう。



10月は「食品ロス削減月間」です!

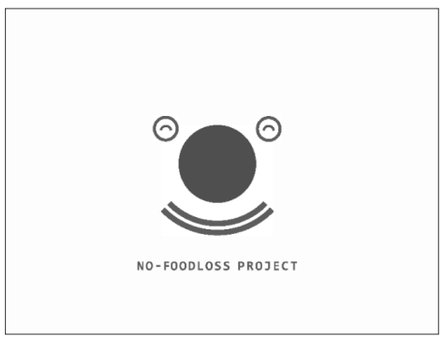
―10月30日は「食品ロス削減の日」―



どんな大産地でも食料資源は**“無限”**ではありません。さまざまな自然の影響によって、農作物が不作になったり、魚の漁獲量が減ったりしています。**私たちの命をつなぐ貴重な食べ物**を大切にいただくために**食品ロス削減**を実践していきましょう!

みなさんは、右のイラストを見たことがありますか?
これは、農林水産省が作成した食品ロス削減国民運動のキャラクター『ろすのん』です。この名前には、「食品ロスをなくす（non）」という願いが込められています。『ろすのん』の真ん中の赤い円は「お皿」、下の二本線は「おはし」がイメージされています。



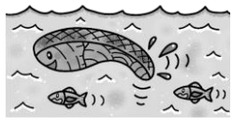


では、『ろすのん』を左のような笑顔にするには、どんなことに取り組んだらよいのでしょうか?

- ●食べきれる分だけ作る。
- ●野菜の皮など食べられる部分はむだなく使う。
- ●自分に合った量を残さずに食べる。
- ●冷蔵庫の中の食品をこまめにチェックする。

などが考えられますね。自分にできることから少しずつ実践していきましょう。

食べ物本来の「姿」を知る機会を





近年、「魚は切り身の姿で泳いでいる」「昆布は畑で育つ」など、食材について間違った認識をしているお子さんがいるそうです。こうしたことが起こる背景には、食品の販売方法も影響しているようです。お店では消費者のニーズに合わせ、できるだけ廃棄する部分を除いて、すぐ食べられるようにして売られていることが多くなっています。

そこで機会があれば、ぜひ、お子さんに**食べ物本来の「姿」を知る機会**を作っていただきたいと思います。食べ物本来の姿を知ることで、私たちが生き物の「命」をいただいていることを実感でき、食べ物を大切に食べることにもつながると思います。



ご存じですか? 漢字の成り立ち

給食ってどんな意味なのかな?

給（給）　…糸（糸）と合（合）がよりそってできています

「糸」は絹糸が束ねてある様子を表したものです。「合」は「口」と「人（「集」の原字）」を合わせて大勢の人が集まる様子を表した漢字だと長らく考えられていました※。この2つを組み合わせると、

「**1つだけでなく、いろいろなものを集めて足して、十分なものにする**」という意味を創り出すこともできそうです。「給食」に、この「給」の字が使われていることで、「いろいろな食品を集め、足りないところを足りるようにする」という給食の姿がさらにアピールできそうです。また給食が「主食･主菜･副菜･牛乳」という献立になっていることにも通じますね。



※現在は別説があります。

食（食）　…ご飯が盛られた器（食）と
それを食べようとする人の口（口）からできています※

※諸説あります。字形出典『漢語古文字字形表』（中華書局, 2010）

さらに、そもそもの漢字の成り立ちではないそうですが、よく

「人を良くする」と書いて「食」

と言われます。食べ物が心と体をつくる基礎となること、そして食事が人との愛情豊かな関わりを育み、人間に備わる善さを引き出すということをうまく言い表していますね。

